

〔畜産農家の声〕

フォーベルネット会員

吉備中央町 藤本 直美さん
(備前県民局 畜産班)

○はじめに

古代吉備国の大部分を占める岡山県の中央にあり、農業、畜産などの一次産業が盛んで、さらに地産地消や加工、また都市交流などにも取り組んでいる吉備中央町。今回はその町で酪農経営を営む藤本牧場の藤本直美さんをご紹介します。

○酪農との出会い

直美さんは、旦那さんの実さんと8年前に結婚されるまでは、全く酪農とは無縁の生活を送っていました。「その頃酪農と言えば、北海道？蒜山？というイメージしかありませんでした(笑)」と直美さん。しかし、結婚して間近に見る酪農は想像よりも厳しいものだった様子で、初めはとまどいも感じていたそうです。それでも日々の仕事をこなすにつれ、「今はどんな職業でも厳しい。ここでは自分が頑張った分だけ成果がでるし、やりがいもある。だから、頑張ろう！」と変わっていったそうです。影ではきっと実さんの支えと表紙写真のワンパクな子供たちの存在があったのでしょう。

○子育てとの両立、そしてお義母さんの存在

表紙の写真の子供たち、長男の健太君は4才、長女の千尋ちゃんは2才、結構手が掛かる時期ですが、その辺りはどうでしょうか？「今は子育てに手が掛かり、自分が出来る仕事(時間)が限られています。その分お義母さんに助けてもらっているのです、お義母さんにはすごく感謝しています。また、私が気づかない牛の体調に気づいて教えて貰ったりと日々勉強させて貰ってます。」

○和牛の難しさ

現在、酪肉複合経営を目指して和牛の哺育に取り組んでいます。初めは我流で乳牛のやり方で育てていたそうですが、1頭目はビギナーズラック、でも2頭目以降は厳しい結果ばかりで、これではいかんと奮起。それから人から聞いたことはほとんど試しているそうです。「今は産まれたばかりの子牛には暇があればスターターを舐らせてます。いや押し込んでるかな(笑)」こちらの子育ても大変のようです。

○将来の夢

2年前に、実さんのお父さんが急逝され、経営・家庭の大黒柱を失った藤本牧場は一時期、牛が減った時期もありましたが、実さん、直美さんの頑張り、お義母さんの支え、周りの人々の支援もあり、かつての姿をほぼ取り戻しつつあります。

そんな中、直美さんに将来の夢を聞いてみました。「将来は定期的に旅行に行きたいですね。できれば年に一回、できれば海外？主人がゴルフ好きだからハワイかな？まあ、何とか前向きに頑張ります(笑)」

(備前県民局畜産班)

日々の作業や子育てに忙殺され、なかなかフォーベルネットの集いに参加出来ていないとのことでしたが、会員の皆さんとの少ない交流の中からヒントを見つけ、今の厳しい畜産情勢のなかで、一歩でも前進していきたいという精神をひしひしと感じました。

今後のご活躍を願っています。